

基本目標3 「潤い・快適・活力」のにぎわいのまち

分野別政策10 にぎわいと活力を創造する地域産業の振興

施策 No. 32 農林業の振興

10年後のめざす姿 農林業の多様な担い手が育成・確保され、地域資源を活かした安定的かつ持続的な農林業が展開されており、多面的機能を有する豊かな森林空間が保たれています。

住みよさ指標	当初	単位	実績値の推移					目標値 (H37)	評価	
			H28	H29	H30	H31	H32			
1 「農林業の振興」に関する市民満足度	5.1	%	目標値	5.1	5.4			7.5	10.0	○
			実績値	5.4						
2 農業従事者数(兼業農家含む)	934	人	目標値	934	934			934	934	↘
			実績値	844						
3 林業従事者数	48	人	目標値	48	48			48	48	○
			実績値	48						
4 朝市・直売所の売上高	2.59	億円	目標値	6.00	7.20			7.20	7.20	○
			実績値	6.00						
5 森林ボランティア登録数	86	人	目標値	86	95			120	145	○
			実績値	90						

総合評価	住みよさ指標の状況
B	平成26年にくろまろの郷内に、あすかてくで河内長野店が開業したこと等に伴い、市内の直売所の売上高は大幅に増加した。農業従事者は、高齢化の進展等により、減少している。林業従事者数、森林ボランティア数ともに昨年と同数で増加には至らなかった。

施策を構成する事業の状況

各種営農支援にかかる事業や有害鳥獣対策の実施により、営農意欲の維持及び経営安定化に努めた。これにより、市民満足度の向上、直売所売上高の拡大に寄与したものと考える。

林業従事者数の増加に繋がるよう、森林所有者向けの講座や現代林業戦略講座を行い、森林に関心を持ってもらえるように、林業活動に関する情報の提供や、森林づくりの現場視察を行った。森林ボランティア養成講座への支援についても継続して行った。

地域活性・交流拠点施設においては、農産物直売所及び物販コーナーを設け、農産物やおおさか河内材を使用した製品を販売するとともに、レストランやイートイン工房において、地元産の野菜や果物を使ったメニューを提供した。

これまでの取組み	<p>農業の振興にかかる施策においては、営農指導員による栽培指導等の営農支援の展開を図り、直売所売上高の向上や農家所得の向上等を図ってきた。また、有害鳥獣対策については国費による緊急捕獲対策事業を実施したほか、被害防止施設等の設置についても補助事業を行ってきた。今後の農地の担い手の確保に向けては、農地の集約や新規就農者の確保にも努めてきた。</p> <p>林業の振興においては、「第2期かわちながの森林プラン」を策定するとともに、林業従事者や一般市民との意見交換を行った。</p> <p>さらに農林産物の販売及び消費場所として地域活性・交流拠点施設の整備を行った。</p>
課題 (めざす姿との差)	<p>市内農業従事者の構造は自給的農家主体であり、高齢化の進展も著しいことから、今後とも担い手の育成確保や営農支援等の取り組みを継続して実施する必要がある。</p> <p>森林資源の循環利用を推進し森林の多面的機能の発揮に繋げ、豊かな森林空間が保たれることを目指し、「第2期かわちながの森林プラン」を基本方針に、目標とする森林状態を明確にし、実施主体を示した実行プランを策定し推進する。</p> <p>地域活性・交流拠点の整備により、新たに農林産物の販売及び消費場所が増えたが、今後、この施設を活用し販売農家の増加や営農規模の拡大に繋げることが重要である。</p>
今後の方向性	<p>今後においても担い手の確保、農地の維持のため、営農の支援、産地化の推進、6次産業化の推進、有害鳥獣対策の実施等の各施策を継続して推進する。</p> <p>林業の推進に関しては、「第2期かわちながの森林プラン」に基づき、多様な主体の参加による森林保全活用を継続するとともに、「おおさか河内材」を市内外に供給し、森林林業・木材産業の活性化により森林資源の循環利用を推進していく。また、森林所有者向け講座を継続し、おおさか河内材販売協議会等の運営を推進する。</p> <p>地域活性・交流拠点施設の道の駅登録を契機とし、農産物直売所やレストラン等に来訪者を増やし、農林産物の消費量を増やすことで、農林業の活性化を推進する。</p>